

登山にあたって

【体調を整えましょう】

睡眠を十分にとり、体の調子を整えておきましょう。風邪をひくなど体調が悪い時は登山を中止しましょう。

【余裕を持った計画を立てましょう】

自分の体力に合った無理のないコースや日程で計画しましたか？登山地図などのコースタイムは休憩時間を含んでいません。また、宿泊地へは遅くとも日没の2時間前には到着するようにしましょう。

登山計画書（登山届）の必要性

登山は自己責任が原則です。無理のない登山ルートを選び、余裕のある日程で、経験、技術、体力に合わせた登山を心がけましょう。安全な登山を行うにはしっかりとした登山計画書（登山届、入山届）の作成・提出が必要です。

万一被災した場合の早期救助のためにも、家族や職場に計画を伝え、作成した登山計画書を、提出先（県、警察等）を確認の上、提出してください。登山者が複数の場合は、パーティー全員で検討・作成し、代表者が提出してください。

オンライン登山届「コンパス」でも受付けています。右記のQRコードから「コンパス」にアクセスし、登山届や入山届が提出できます。



噴火に備えて

Q 弥陀ヶ原はどのような噴火が考えられますか？

弥陀ヶ原での過去1万年以内の噴火は、熱せられた地下水が水蒸気となって爆発する「水蒸気噴火」でした。ハザードマップでは「水蒸気噴火」を想定しています。

Q 入山中に心がけておくことはありますか？

入山中はスマートフォンや携帯電話の電源をONにし、緊急速報メールを受信できるようにしましょう。通信機器の電波が入りにくい場所もありますので、実際に電波が届くか確認することも大切です。

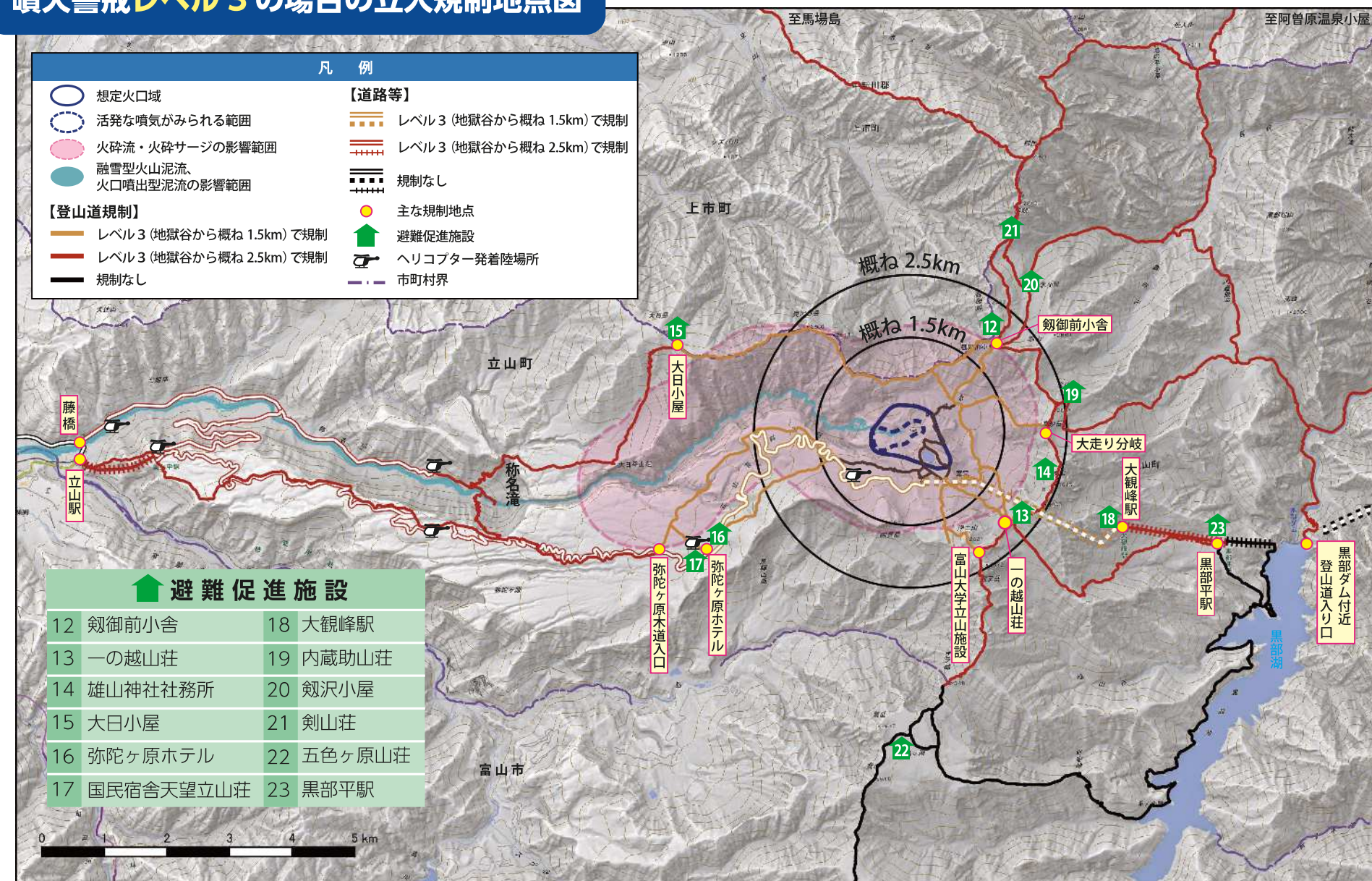
Q 噴火の前触れはありますか？

前触れなく噴火する可能性もあるため、常に火口付近の様子に気をつけましょう。噴気等の異常現象を発見した時は、安全な場所まで避難または下山するとともに、立山町や警察、気象台に通報しましょう。

Q 噴火が始まったらどうすればよいですか？

噴火に遭遇したら、直ちに火口から離れるとともに近くの岩陰や施設などに避難しましょう。また、降灰や小さな噴石から身を守るためにヘルメットやゴーグルを着用し、火山ガスを直接吸い込まないようにマスクや湿らせたタオルなどで口を覆いましょう。

噴火警戒レベル3の場合の立入規制地点図



弥陀ヶ原で想定される主な火山現象

大きな噴石



噴火で火口から吹き飛ばされる岩石のうち、風の影響を受けずに弾道を描いて飛散する大きなものは、避難までの時間的余裕がほとんどなく、建物の屋根等を破るほどの破壊力があります。

降灰（小さな噴石含む）



噴火で火口から吹き飛ばされる岩石のうち比較的小さいものは風によって火口から離れた広い範囲に拡散します。火口付近では、小さな噴石でも登山者等が死傷することがあります。

火山ガス



火山活動で地表に噴出する高温のガスです。水、二酸化硫黄、硫化水素、二酸化炭素等が主成分です。火山ガスを吸いすると、二酸化硫黄による気管支などの障害や硫化水素による中毒等が起きることがあります。

弥陀ヶ原 火山防災マップ



© 気象庁

この火山防災マップは、弥陀ヶ原における噴火警戒レベル毎の警戒範囲や避難の情報を示したものです。登山者等はレベルに応じた対応を理解し、十分な事前の情報収集と装備の上、安全で楽しい登山を楽しんでください。

立山町

連絡先一覧

避難時の連絡先 市外局番不要

警察 ☎ 110 立山町消防署 ☎ 119

気象・火山に関する情報

富山地方気象台 ☎ 0570-015-024

関係機関連絡先

富山県 防災・危機管理課 ☎ 076-444-9670

立山町 総務課 ☎ 076-463-1121

弥陀ヶ原について知る

富山県警察本部
登山届
提出先



立山町
登山・
トレッキング情報



気象庁
弥陀ヶ原
について

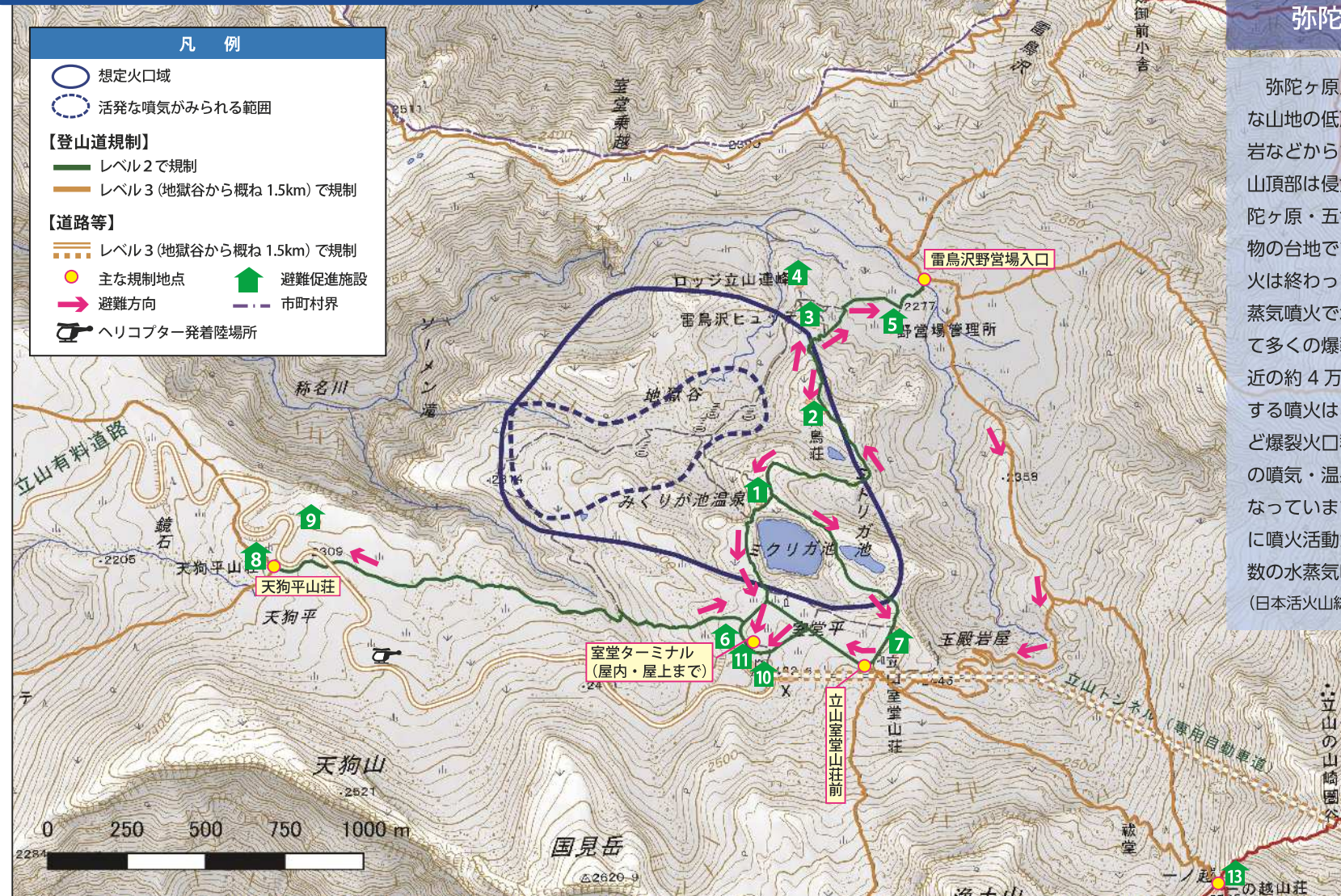


富山県
弥陀ヶ原火山
ハザードマップ



発行：2025年4月 立山町
〒930-0292 富山県中新川郡立山町前沢 2440 番地
協力：弥陀ヶ原火山防災協議会
測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R1JHs 1431

噴火警戒レベル2の場合の立入規制地点図



噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、火山活動の状況を噴火時等の危険範囲や避難等の必要な防災対応に応じて5段階（レベル1～レベル5）に区分したものです。観光客や登山者等に必要な防災対応が分かりやすいように、各区分にそれぞれ「活火山であることに留意」「火口周辺規制」「入山規制」等のキーワードをつけて警戒を呼びかけます。なお、レベルの段階に関わらず、気象庁からの情報には常に注意ください。

レベル	警戒が必要な範囲	登山者等が取るべき対応
5 避難	居住地域及びそれより火口側	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等
4 高齢者等避難		
3 入山規制	地獄谷から概ね 2.5km 以内 / 状況に応じて概ね 1.5km 以内	
2 火口周辺規制	想定火口域	想定火口域への立入規制等
1 活火山であることに留意	状況に応じて想定火口域の一部	状況に応じて想定火口域の一部立入規制等

避難促進施設一覧

「避難促進施設」は、火山現象の発生時に当該施設を利用している方の円滑かつ迅速な避難を確保するための施設です。異常・非常事態が発生したときは、**自分のいる場所から最寄りの施設に避難してください**。避難後は施設のスタッフの指示に従ってください。

施設名	電話番号
1 みくりが池温泉	076-463-1441
2 雷鳥荘	076-463-1664
3 雷鳥沢ヒュッテ	076-463-1835
4 ロッジ立山連峰	076-463-6004
5 雷鳥沢野営場（雷鳥沢休憩所）	090-1632-9141
6 ホテル立山	076-463-3345

施設名	電話番号
7 立山室堂山荘	076-463-1228
8 天狗平山荘	076-463-1139
9 立山高原ホテル	076-463-1014
10 立山自然保護センター	076-463-5401
11 室堂ターミナル	076-463-3345
12 劔御前小舎	080-8694-5076
13 一の越山荘	090-1632-4629

弥陀ヶ原を知ろう

弥陀ヶ原火山は、立山周辺の急峻な山地の低所を埋めて成長した安山岩などからなる成層火山で、火山の山頂部は侵食で失われています。弥陀ヶ原・五色ヶ原は主に火砕流堆積物の台地です。数万年前にマグマ噴火は終わっていますが、その後の水蒸気噴火で地獄谷から室堂平にかけて多くの爆裂火口が生まれました。最近の約4万年間は、マグマに由来する噴火はありませんが、地獄谷など爆裂火口群の水蒸気噴火と地獄谷の噴気・温泉活動が主な火山活動になっています。地獄谷では江戸時代に噴火活動が発生しているほか、複数の水蒸気噴火が起きています。（日本活火山総覧（第4版）より一部引用）

※中部山岳国立公園・地獄谷では、平成24年から地獄谷内の歩道が通行止めとなっています。

※避難方向の矢印はあくまで目安であり、噴火が発生した場合は、火口から離れる方向に避難しましょう。